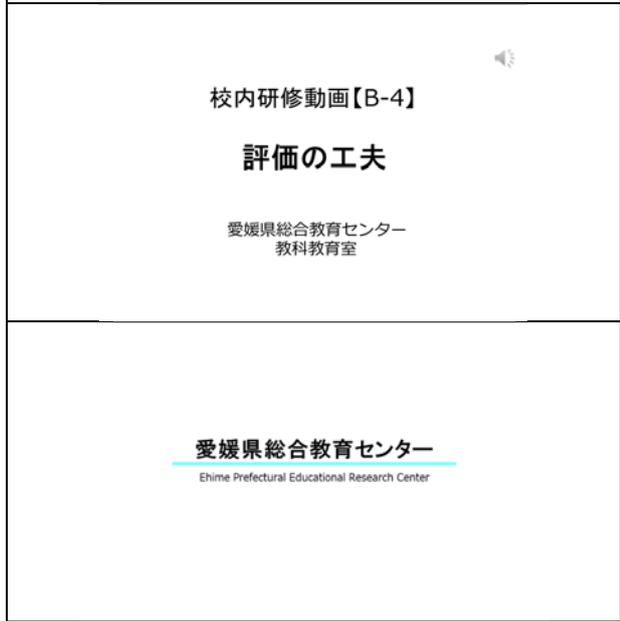


校内研修動画＆協議・演習 企画書

動画番号 B-4	評価の工夫		
ねらい	学習指導要領の趣旨を生かした学習評価について理解を深め、具体的な評価の方法について考える。	所要時間 (40)分	動画(10)分
準備物			演習(25)分
			まとめ(5)分

パワーポイント	説明
 <p>校内研修動画【B-4】 評価の工夫 愛媛県総合教育センター 教科教育室</p> <p>愛媛県総合教育センター Ehime Prefectural Educational Research Center</p>	<p>研修動画B-4は、評価の工夫についてです。本研修のねらいは、「学習指導要領の趣旨を生かした学習評価について理解を深め、評価の方法について考える」です。</p> <p>学習評価は、学校における教育活動に関して、児童生徒の学習状況を評価するものです。教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性のある取組を進めることが求められます。</p>
<p>校内研修動画【B-4】 評価の工夫</p> <p>研修のねらい 学習指導要領の趣旨を生かした学習評価について理解を深め、評価の方法について考える。</p>	
<p>学習評価とは？</p> <p>学習評価：学校における教育活動に関し、児童生徒の学習状況を評価するもの</p> <p>「児童生徒にどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、児童生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにするためにも、学習評価の在り方は重要であり、教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性のある取組を進めることが求められます。</p> <p><small>「学習評価の在り方ハンドブック」文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター</small></p>	

カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善と評価



学習評価は、カリキュラムマネジメントの推進や主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を行う上で、重要な役割を果たします。

カリキュラムマネジメントの PDCA サイクルのチェックの部分では、児童生徒の学習状況を調査し、その結果を Action にあるように授業や指導計画等の改善につなげることが大切です。

さらに、こうした改善を踏まえて、Plan にあるように各種指導計画が作成され、Do にあるように指導計画を踏まえた教育の実施がされていくといった好循環を生み出していくことが大切になります。

学習評価の改善の基本方針

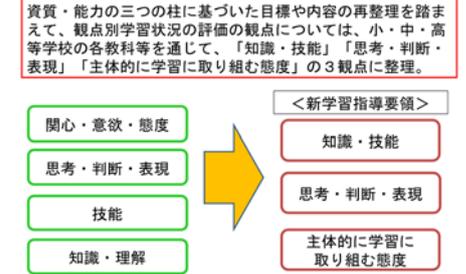
- ☑教師の指導改善につながるものにしていくこと
- ☑児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- ☑これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

次の授業では〇〇を重点的に指導しよう。

〇〇のところはもっと〜した方がよいですね。

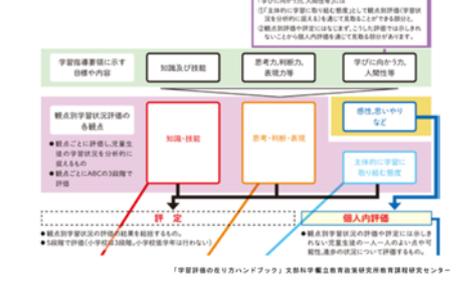
学習評価の基本方針として、「教師の指導改善につながるものにしていくこと」「児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと」「これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと」が示されました。

観点別学習状況の評価の観点の整理



資質・能力の三つの柱に基づいた目標や内容の再整理を踏まえて、観点別学習状況の評価の観点についても、それまでの多くの教科では4観点でしたが、全ての教科で3観点到整理されました。

各教科における評価の基本構造



各教科における評価の基本構造をまとめたものが、こちらの図になります。各教科における評価は、学習指導要領が示す各教科の目標や内容に照らして、学習状況を評価するものです。

「知識・技能」の評価

「知識・技能」

一つ一つ個別に評価できる性質をもった知識や概念（の理解）を評価する観点

評価する内容

知識および技能の習得状況について評価を行うとともに、それらを既有的知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているか

評価の工夫（例）

ペーパーテストにより知識の習得を問う問題や、知識の概念的な理解を問う問題をバランスよく出題する。文章による説明をしたり、式やグラフで表現したりするなど実際に知識や技能を用いる場面を設ける。

「知っている・できる」レベルのみならず「わかる」レベルも含めた評価をする工夫が求められる。

教科の枠を越えた、全体の考え方について説明します。まず、知識・技能についてです。知識および技能の習得状況について評価を行うとともに、それらを既有的知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかを測ります。評価方法としては、ペーパーテストにより知識の習得を問う問題や、知識の概念的な理解を問う問題をバランスよく出題します。文章による説明をしたり、各教科の内容の特性に応じて、観察・実験をしたり、式やグラフで表現したりするなど実際に知識や技能を用いる場面を設けます。「知っている・できる」レベルのみならず「わかる」レベルも含めた評価をする工夫が求められます。

「わかる」レベルとは、例えば、社会科の歴史であれば、歴史上の人物や年号を覚えるだけでなく、その出来事が起きた原因や影響など全体の流れまで理解するという事です。

「思考・判断・表現」の評価

「思考・判断・表現」

一つ一つ個別に評価できないような能力を評価する観点
思考や判断等の洗練の程度やレベルを評価する

評価する内容

各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうか

評価の工夫(例)

ペーパーテストのみならず、論述やレポートの作成、発表、グループや学級における話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れる。

パフォーマンス課題に基づく評価など
ポートフォリオを活用するなどの評価方法の工夫

「学習評価の在り方ハンドブック」文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター

「主体的に学習に取り組む態度」の評価

「主体的に学習に取り組む態度」

「学びに向かう力・人間性等」のうち個人内評価で見取る部分(個人のよい点や可能性など)を除く部分

評価する内容

知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面

評価の工夫(例)

ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察や、児童生徒による自己評価や相互評価等の状況を教師が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いる。

各教科の特質に応じて、児童生徒の発達の段階や一人一人の個性を十分に考慮しながら、「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で、評価を行う。

「学習評価の在り方ハンドブック」文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター

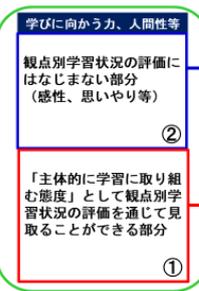
次に、思考・判断・表現です。各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを測ります。

評価に際しては、ペーパーテストのみならず、論述やレポートの作成、発表、グループや学級における話し合いなどの多様な活動を取り入れます。

また、パフォーマンス課題に基づく評価、ポートフォリオを活用するなどの評価方法の工夫が求められます。

主体的に学習に取り組む態度についてです。知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど、自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意味的な側面を評価します。ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察や、児童生徒による自己評価や相互評価等の状況を、教師が評価を行う際の材料の一つとして用います。各教科の特質に応じて、児童生徒の発達の段階や一人一人の個性を十分に考慮しながら、「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で、評価を行います。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価



個人内評価(児童生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況について評価するもの)等を通じて見取る。

※ 特に「感性や思いやり」などの児童生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況などについては、積極的に評価し、児童生徒に伝えることが重要

知識及び技能を獲得したり、思考力、判断、表現力等身に付けたりすることにに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしているかを含めて評価する。

(「改善通知2」(1)(2))

「主体的に学習に取り組む態度の評価」と「学びに向かう力、人間性等」との関係性を確認します。

「学びに向かう力、人間性等」には

①の「主体的に学習に取り組む態度」として見取ることができる部分と②の観点別評価にはなじまない部分があります。

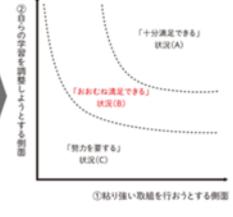
②の観点別評価になじまない部分には、感性、思いやりなどがあたとされており、個人内評価を通じて見取ります。観点別評価の形はとりません。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価

「主体的に学習に取り組む態度」の評価のイメージ

○「主体的に学習に取り組む態度」については、①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることにに向けた粘り強い取組を行う中、自らの学習を調整しようとする側面、②この二つの側面から評価することが求められる。

○これら①②の姿は実際の教科等の学びの中では別々ではなく相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられる。例えば、自らの学習を全く調整しようとする粘り強い取組も、粘り強さが全くない中で自らの学習を調整する姿は一般的ではない。



「学習評価の在り方ハンドブック」文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター

「主体的に学習に取り組む態度」は、スライドにあるように2つの側面があります。

① 「知識及び技能」を獲得したり、「思考力、判断力、表現力等」を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面です。

② 粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面です。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価

「自らの学習を調整しようとする側面」とは・・・

- ・ 自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなどの意思的な側面

評価に当たっては

- ・ 児童生徒が自らの理解の状況を振り返ることができるような発問の工夫
- ・ 自らの考えを記述したり話し合ったりする場面を設ける
- ・ 他者との協働を通じて自らの考えを相対化する場面を設ける

「学習評価の在り方ハンドブック」文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター

「自らの学習を調整しようとする側面」とは・・・

自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなどの意思的な側面のことです。例えば、児童生徒が友達の意見を聞いて、自分の考えを見直してみようとするような学習を調整しようとする側面のことです。評価にあたっては、児童生徒が自らの理解の状況を振り返ることができるような発問の工夫をしたり、自らの考えを記述したり話し合ったりする場面、他者との協働を通じて自らの考えを相対化する場面を、単元や題材などの内容のまとまりの中で設けたりするなど、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図る中で、適切に評価できるようにしていくことが重要です。

<p style="text-align: center;">「主体的に学習に取り組む態度」の評価</p> <p style="text-align: center;">主体的に学習に取り組む態度 関心・意欲・態度</p> <p style="text-align: center;">同じ趣旨ですが・・・</p> <div style="border: 2px solid yellow; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">こんなことで評価をしていませんか？</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 挙手回数 ・ 毎時間のノートを取っているか ・ 性格、行動面の傾向が一時的に表出されている場面 	<p>以前の関心・意欲・態度の評価では、挙手の回数や毎時間のノートを取っているか、忘れ物の有無など、性格や傾向が一時的に表出された場面を捉える評価であるような誤解が払拭し切れていないということが指摘されていました。</p> <p>各教科等の学習内容に関心をもつことだけではなく、より良く学ぼうとする意欲をもって学習に取り組む態度を評価するという趣旨が改めて強調されました。</p>
<p style="text-align: center;">「主体的に学習に取り組む態度」の評価</p> <p style="text-align: center;">「主体的に学習に取り組む態度」の評価</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; border: 1px solid blue; padding: 5px;"> 知識及び技能の習得 思考力、判断力、表現力等の育成 </div> <p style="text-align: center;">これら2つの場面に関わって行うものである</p> <div style="margin-top: 10px;"> <p>→ その評価の結果を、教師の指導や児童生徒の学習の改善にも生かし、バランスのとれた資質・能力の育成を図るという視点が重要</p> <p>→ この観点のみを取り出して、例えば挙手の回数など、その形式的態度を評価することは適当ではなく、他の観点に関わる児童生徒の学習状況と照らし合わせながら学習や指導の改善を図ることが重要</p> </div>	<p>先に述べた通り、「知識及び技能」と「思考力・判断力、表現力等」の2つの側面にかかわって評価を行うものであり、その評価の結果を、教師の指導や児童生徒の学習の改善にも生かし、バランスのとれた資質・能力の育成を図るという視点が重要です。ですから、この観点のみを取り出して、先ほど述べた挙手の回数や毎時間のノートの取り方など、その形式的態度を評価することは適当ではなく、他の観点に関わる児童生徒の学習状況と照らし合わせながら学習や指導の改善を図ることが重要です。</p>
<p style="text-align: center;">学習評価の充実例</p> <p style="text-align: center;">評価時期の工夫の例</p> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>● 観点別学習状況の評価を行う場面の精選</p> <p>観点別学習状況の評価に係る記録は、毎回の授業ではなく、単元や題材などの内容や時間のまとまりごとに行うなど、評価場面を精選する。</p> <p>※日々の授業の中では児童生徒の学習状況を把握して指導に生かすことに重点をおくことが重要</p> </div> <p style="text-align: right; font-size: small;">(報告P. 14, 15 改善等通知4<参考>)</p>	<p>評価時期の工夫の例です。</p> <p>観点別学習状況の評価にかかる記録は、毎日の授業ではなく、単元や題材等のまとまりごとに行うなど、評価場面を精選することが重要とされました。</p> <p>学習評価を行うにあたり、日々の授業の中では児童生徒の学習状況を適宜、把握して指導に生かすことは大切です。</p>
<p style="text-align: center;">演習</p> <div style="border: 2px solid red; padding: 10px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p style="font-size: 2em; color: blue;">演習 25分</p> <p style="font-size: 2em; color: blue;">グループ協議</p> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  </div>	<p>学習評価についての理解は進んでいるでしょうか。それでは、これから学習評価についてグループで協議を行います。学年部でグループを作ります。小学校であれば、低学年、中学年、高学年ごとにグループを作っても構いません。</p>
<p style="text-align: center;">演習</p> <p style="text-align: center;">【協議内容】 (25分)</p> <div style="border: 1px solid red; padding: 10px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p style="font-size: 1.5em; color: blue;">「学習評価における現状と課題について」</p> <p>※一つの教科に特化しても構わない。</p> </div>	<p>協議内容についてです。テーマは「学習評価における現状と課題について」です。話合いの際、一つの教科に絞っても構いません。何か課題が出てきたら、その課題解決のための糸口についても話し合ってみましょう。その際、ポイントが2つあります。①児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと、②教師の指導改善につながるものにしていくこと。これら2点です。</p> <p>それでは、グループに分かれ、協議を始めてください。時間は25分間です。ここで動画を一度ストップしてください。</p>

学習評価の工夫

学習評価の具体例について

現状の把握や課題の洗い出しができてきたでしょうか。また、課題解決の糸口となるものに繋がったでしょうか。では次に、学習評価の具体例について、いくつか紹介します。

学習評価の工夫

パフォーマンス評価とルーブリック



パフォーマンス評価
スピーチ、プレゼンテーション、演奏、歌唱のような発表や実演活動など多くの場面で、パフォーマンスの内容や態度を評価することがある。

ルーブリック
どの程度できたらA～Cとするなどと評価の基準を示した一覧表を作成しておくことで評価の基準がぶれない。

パフォーマンス評価とルーブリックについてです。パフォーマンス評価とは、スピーチ、プレゼンテーションなどの発表や実技・実演活動などの場面で、パフォーマンスの内容や態度等を評価するものです。どの程度できたらA～Cとするなどと評価の基準を示した一覧表（ルーブリック）を作成しておくことで評価の基準がぶれません。

学習評価の工夫

【ルーブリックの例】 小学校外国語科 (話すこと [発表])

パフォーマンス課題

交流プログラムで出会う海外の小学生に自分が紹介したい地域の良さ（食べ物、行事、遊び）を発表しよう。

	A (5)	B (3)	C (1)
内容	地域についての説明や感想を適切に伝え、内容を盛り込んでいる。	伝えたいものを選んで、簡潔に説明している。	伝えたい内容を伝えきれていない。
声 (大きさや明瞭さ)	大きく、明瞭な声で、感情を込めて話している。	相手に届く声で話せている。	声が小さく、伝わりにくい。
コミュニケーションの態度 (目標、積極性)	アイコンタクトをしっかりと取り、積極的に話している。	アイコンタクトにも配慮している。	アイコンタクトがあまりなく、積極性が見られなかった。

これは、小学校外国語科のルーブリックの例です。このような基準を設けておくと、一貫性を持って採点することができ、信頼性・妥当性のある評価につながります。また、これを児童に事前に示すことで、教員と児童が目標を共有し、目指す姿を相互に認識でき、児童は見通しを持って意欲的に学習に取り組むことができます。時には評価活動に児童を参加させることにより、客観的に自己評価や相互評価ができます。また、主体的に学習する態度が養われ、家庭学習においても意欲が高まることが期待できます。

学習評価の工夫

【ルーブリックの例】 小学校外国語科 (話すこと [発表])

一貫性を持った採点

信頼性・妥当性

教員と児童生徒が評価基準・目標を共有

見通しを持って意欲的に学習

	A (5)	B (3)	C (1)
内容	地域についての説明や感想を適切に伝え、内容を盛り込んでいる。	伝えたいものを選んで、簡潔に説明している。	伝えたい内容を伝えきれていない。
声 (大きさや明瞭さ)	大きく、明瞭な声で、感情を込めて話している。	相手に届く声で話せている。	声が小さく、伝わりにくい。
コミュニケーションの態度 (目標、積極性)	アイコンタクトをしっかりと取り、積極的に話している。	アイコンタクトにも配慮している。	アイコンタクトがあまりなく、積極性が見られなかった。

効率的な評価実施のためには、ICT 機器を評価に活用することもできます。動画や画像を用いた評価を行うことにより、時間の節約にもつながり、効率的かつ妥当性・信頼性のある適切な評価につながります。また、評価結果等については、児童生徒へ適切にフィードバックし、授業改善、学習改善や児童生徒の学習意欲の向上につなげていきましょう。

学習評価の工夫

ICT機器を評価に活用 (効率的な評価実施のために)
○タブレット端末でパフォーマンスを録画

- 個人やグループの発表を指導者が録画、児童生徒同士で録画しデータを集約
- 授業後にルーブリック表を用いて一貫性を持った公平な評価に

複数の目で見ること、評価の妥当性・信頼性を高める

<p style="text-align: center;">まとめ</p> <p>学習評価の妥当性、信頼性を高める工夫の例</p> <p>※例えば以下の取組が考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師同士での評価規準や評価方法の検討、明確化 ・実践事例の蓄積・共有 ・評価結果の検討等を通じた教師の力量の向上 ・校内組織（学年会や教科等部会等）の活用 <p style="text-align: center;">学校全体としての組織的かつ計画的な取組</p> <p style="text-align: right;"><small>（報告P26 改善等通知4<参考>）</small></p>	<p>最後に、学習評価の妥当性を高めるためには、評価規準や方法について、事前に教師同士で検討し、明確化することや評価に関する実践事例を蓄積し共有することなど、学校として、組織的かつ計画的に取り組むことが大切です。</p>
<p>○「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">国立教育政策研究所HPからダウンロードできます https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryu.htm</p>	<p>評価に関する詳細は、国立教育政策研究所のホームページに学習評価に関する参考資料があります。評価規準作成の手順や評価事例などが掲載されていますので、ぜひダウンロードして活用してください。</p>

協議・演習の内容と流れ（案）

分	内容と流れ
10	<p>動画視聴 動画を視聴し、学習評価の考え方について、理解を深める。</p>
25	<p>グループ協議 学習評価に関する現状と課題について、各学年でグループを作り、協議する。 ※ 低学年、中学年、高学年ごとにグループを作っても構わない。 意見の共有 各グループの中で話し合われた内容について共有する。</p>
5	<p>まとめ（動画視聴） 動画を視聴し、学習評価の妥当性を高めるために、学校として組織的かつ計画的に取り組むことを確認する。</p>